

3次元地質モデリングの実用化と可能性—情報社会における地質情報

米澤 剛 氏（京都大学東南アジア研究所）

地下の地質情報は我々の生活の基盤を支える空間情報の重要な要素の一つです。環境保護や自然災害防止、地下利用などの問題解決には地質情報が不可欠であり、その必要性は国内だけでなく、とくに東南アジア地域でも年々高まっています。このような社会の要求に答えるためには、関連する諸分野へ地質情報を正確に伝達する必要があり、「3次元地質モデリング」はその有効的な手段の一つであると考えます。地質構造をモデル化するには、データ解析に先立って、地質体（地層）の分布域と境界面の間に成り立つ論理的関係（地質構造の論理モデル）を正確に設定しておく必要があります。3次元地質モデリングは、この地質構造の論理モデルにもとづいて、GIS や関連する処理技術を用いて地下の地質分布を3次元的に表現・可視化する一連の作業のことです。本発表では、この3次元地質モデリングの考え方と構築方法を示すとともに、関連する諸分野への導入について提起したいと考えています。